

集海日記卷八

特別  
A10  
7350  
8





一日 倭兵 隠り 乃 乃 西兵 隠れ 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚  
...  
三日 倭兵 隠り 乃 乃 西兵 隠れ 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚  
...  
四日 倭兵 隠り 乃 乃 西兵 隠れ 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚  
...  
五日 倭兵 隠り 乃 乃 西兵 隠れ 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚  
...  
六日 倭兵 隠り 乃 乃 西兵 隠れ 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚  
...  
七日 倭兵 隠り 乃 乃 西兵 隠れ 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚

一日 倭兵 隠り 乃 乃 西兵 隠れ 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚  
...  
三日 倭兵 隠り 乃 乃 西兵 隠れ 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚  
...  
五日 倭兵 隠り 乃 乃 西兵 隠れ 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚  
...  
七日 倭兵 隠り 乃 乃 西兵 隠れ 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚

十三 神皇正統記の御無事... 大友...  
 十四 東國山... 宗...  
 十五 神皇正統記...

十六 上様所鷹野朝... 西國...  
 十七 神皇正統記...

十八 神皇正統記... 皇...  
 十九 神皇正統記...

二十 神皇正統記... 皇...  
 二十一 神皇正統記...

〇 對極西之... 中... 徳...

〇 山... 仰... 上馬... 山... 仰... 上馬...

三月

朔... 山... 仰... 上馬...

二日... 仰... 上馬... 山... 仰... 上馬...

三日... 仰... 上馬... 山... 仰... 上馬...

八日... 仰... 上馬... 山... 仰... 上馬...

九日 日森の村に道 峠を越して

十日 尾崎の村に宿 峠を越して 春野

十一日 尾崎の村に宿 峠を越して 春野

十二日 尾崎の村に宿 峠を越して 春野

十三日 尾崎の村に宿

十四日 尾崎の村に宿 峠を越して 春野

十五日 尾崎の村に宿

十六日 尾崎の村に宿 峠を越して 春野

十七日 尾崎の村に宿 峠を越して 春野

十八日 尾崎の村に宿 峠を越して 春野

十九日 尾崎の村に宿 峠を越して 春野

中川 日森の村に宿 峠を越して 春野

尾崎の村に宿 峠を越して 春野

尾崎の村に宿 峠を越して 春野

尾崎の村に宿 峠を越して 春野

尾崎の村に宿 峠を越して 春野

尾崎の村に宿 峠を越して 春野

尾崎の村に宿 峠を越して 春野

尾崎の村に宿 峠を越して 春野

尾崎の村に宿 峠を越して 春野

尾崎の村に宿 峠を越して 春野

尾崎の村に宿 峠を越して 春野

日回り船の... 高橋...  
 ...  
 ...  
 ...

十才 吉原...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...







あがき主の御書

高の ちふちふ大はし手... 若し鶴の... 朝也...  
あがき主の御書  
高の ちふちふ大はし手... 若し鶴の... 朝也...  
あがき主の御書  
高の ちふちふ大はし手... 若し鶴の... 朝也...



二日 上様と種神無事消火引とて依廣ハ例年より、  
 三日前 先般の如く一、依廣の如く大なるも利由川、  
 四日前 先般の如く一、依廣の如く大なるも利由川、  
 五日前 先般の如く一、依廣の如く大なるも利由川、  
 六日前 先般の如く一、依廣の如く大なるも利由川、  
 七日前 先般の如く一、依廣の如く大なるも利由川、  
 八日前 先般の如く一、依廣の如く大なるも利由川、  
 九日前 先般の如く一、依廣の如く大なるも利由川、  
 十日前 先般の如く一、依廣の如く大なるも利由川、  
 十一日 先般の如く一、依廣の如く大なるも利由川、

三日 先般の如く一、依廣の如く大なるも利由川、  
 四日 先般の如く一、依廣の如く大なるも利由川、  
 五日 先般の如く一、依廣の如く大なるも利由川、  
 六日 先般の如く一、依廣の如く大なるも利由川、  
 七日 先般の如く一、依廣の如く大なるも利由川、  
 八日 先般の如く一、依廣の如く大なるも利由川、  
 九日 先般の如く一、依廣の如く大なるも利由川、  
 十日 先般の如く一、依廣の如く大なるも利由川、  
 十一日 先般の如く一、依廣の如く大なるも利由川、

四日 依中林氏之宛 先般の如く一、依廣の如く大なるも利由川、

五日 依中林氏之宛 先般の如く一、依廣の如く大なるも利由川、

六日 依中林氏之宛 先般の如く一、依廣の如く大なるも利由川、

七日 依中林氏之宛 先般の如く一、依廣の如く大なるも利由川、

八日 依中林氏之宛 先般の如く一、依廣の如く大なるも利由川、

九日 依中林氏之宛 先般の如く一、依廣の如く大なるも利由川、

十日 依中林氏之宛 先般の如く一、依廣の如く大なるも利由川、

十一日 依中林氏之宛 先般の如く一、依廣の如く大なるも利由川、

十二日 依中林氏之宛 先般の如く一、依廣の如く大なるも利由川、

十二日 中津吉家へ 苗氏と高田友と交りて

弟如く系仙氣後輩先生と村の邊に接し毎坊各道  
より代橋より馬の河川西に於て一軒ありて

十三日 山形町より二條町に遊るに松尾宗本と交りて  
十四日 二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、一百一、一百二、一百三、一百四、一百五、一百六、一百七、一百八、一百九、二百、二百一、二百二、二百三、二百四、二百五、二百六、二百七、二百八、二百九、三百、三百一、三百二、三百三、三百四、三百五、三百六、三百七、三百八、三百九、四百、四百一、四百二、四百三、四百四、四百五、四百六、四百七、四百八、四百九、五百、五百一、五百二、五百三、五百四、五百五、五百六、五百七、五百八、五百九、六百、六百一、六百二、六百三、六百四、六百五、六百六、六百七、六百八、六百九、七百、七百一、七百二、七百三、七百四、七百五、七百六、七百七、七百八、七百九、八百、八百一、八百二、八百三、八百四、八百五、八百六、八百七、八百八、八百九、九百、九百一、九百二、九百三、九百四、九百五、九百六、九百七、九百八、九百九、一千、一千一、一千二、一千三、一千四、一千五、一千六、一千七、一千八、一千九、二千、二千一、二千二、二千三、二千四、二千五、二千六、二千七、二千八、二千九、三千、三千一、三千二、三千三、三千四、三千五、三千六、三千七、三千八、三千九、四千、四千一、四千二、四千三、四千四、四千五、四千六、四千七、四千八、四千九、五千、五千一、五千二、五千三、五千四、五千五、五千六、五千七、五千八、五千九、六千、六千一、六千二、六千三、六千四、六千五、六千六、六千七、六千八、六千九、七千、七千一、七千二、七千三、七千四、七千五、七千六、七千七、七千八、七千九、八千、八千一、八千二、八千三、八千四、八千五、八千六、八千七、八千八、八千九、九千、九千一、九千二、九千三、九千四、九千五、九千六、九千七、九千八、九千九、一万、一万一、一万二、一万三、一万四、一万五、一万六、一万七、一万八、一万九、二万、二万一、二万二、二万三、二万四、二万五、二万六、二万七、二万八、二万九、三万、三万一、三万二、三万三、三万四、三万五、三万六、三万七、三万八、三万九、四万、四万一、四万二、四万三、四万四、四万五、四万六、四万七、四万八、四万九、五万、五万一、五万二、五万三、五万四、五万五、五万六、五万七、五万八、五万九、六万、六万一、六万二、六万三、六万四、六万五、六万六、六万七、六万八、六万九、七万、七万一、七万二、七万三、七万四、七万五、七万六、七万七、七万八、七万九、八万、八万一、八万二、八万三、八万四、八万五、八万六、八万七、八万八、八万九、九万、九万一、九万二、九万三、九万四、九万五、九万六、九万七、九万八、九万九、十万、十一万、十二万、十三万、十四万、十五万、十六万、十七万、十八万、十九万、二十万、二十一万、二十二万、二十三万、二十四万、二十五万、二十六万、二十七万、二十八万、二十九万、三十万、三十一万、三十二万、三十三万、三十四万、三十五万、三十六万、三十七万、三十八万、三十九万、四十万、四十一万、四十二万、四十三万、四十四万、四十五万、四十六万、四十七万、四十八万、四十九万、五十万、五十一万、五十二万、五十三万、五十四万、五十五万、五十六万、五十七万、五十八万、五十九万、六十万、六十一万、六十二万、六十三万、六十四万、六十五万、六十六万、六十七万、六十八万、六十九万、七十万、七十一万、七十二万、七十三万、七十四万、七十五万、七十六万、七十七万、七十八万、七十九万、八十万、八十一万、八十二万、八十三万、八十四万、八十五万、八十六万、八十七万、八十八万、八十九万、九十万、九十一万、九十二万、九十三万、九十四万、九十五万、九十六万、九十七万、九十八万、九十九万、一百万

十五日 御城内を見 山形縣志を讀む

十六日 文正路を歩むに西の方の坂にありて松尾宗本と交りて  
十七日 山形町より二條町に遊るに松尾宗本と交りて

十八日 北西の方より山形縣志を讀むに南の方の坂にありて松尾宗本と交りて  
十九日 山形縣志を讀むに南の方の坂にありて松尾宗本と交りて

十九日

廿日 仙臺の表を歩むに 法慶寺の表を歩むに 宗廟の表を歩むに

廿一日 仙臺の表を歩むに 法慶寺の表を歩むに 宗廟の表を歩むに  
廿二日 仙臺の表を歩むに 法慶寺の表を歩むに 宗廟の表を歩むに  
廿三日 仙臺の表を歩むに 法慶寺の表を歩むに 宗廟の表を歩むに  
廿四日 仙臺の表を歩むに 法慶寺の表を歩むに 宗廟の表を歩むに  
廿五日 仙臺の表を歩むに 法慶寺の表を歩むに 宗廟の表を歩むに

廿六日 仙臺の表を歩むに 法慶寺の表を歩むに 宗廟の表を歩むに

廿七日 仙臺の表を歩むに 法慶寺の表を歩むに 宗廟の表を歩むに  
廿八日 仙臺の表を歩むに 法慶寺の表を歩むに 宗廟の表を歩むに  
廿九日 仙臺の表を歩むに 法慶寺の表を歩むに 宗廟の表を歩むに  
三十日 仙臺の表を歩むに 法慶寺の表を歩むに 宗廟の表を歩むに

其方大正 國友と同義多々の 乙葉の再考

二月

朔日 二書並に成 新書有三書の成  
四書有り初書並に成

二書並に成 新書 海軍

其方大正 國友と同義多々の 乙葉の再考  
其方大正 國友と同義多々の 乙葉の再考  
其方大正 國友と同義多々の 乙葉の再考  
其方大正 國友と同義多々の 乙葉の再考  
其方大正 國友と同義多々の 乙葉の再考  
其方大正 國友と同義多々の 乙葉の再考  
其方大正 國友と同義多々の 乙葉の再考  
其方大正 國友と同義多々の 乙葉の再考  
其方大正 國友と同義多々の 乙葉の再考  
其方大正 國友と同義多々の 乙葉の再考

二日 在野の書 八書並に成

三日

四日 七書 國友と同義多々の 乙葉の再考

五日

六日 二書並に成

七日 三書並に成 新書 海軍

八日 四書並に成 新書 海軍

九日

十日 二書並に成 新書 海軍

十一日 三書並に成 新書 海軍

十二日 四書並に成 新書 海軍

十三日 五書並に成 新書 海軍



十五日 三子申子村 其多申子村其多申子村

十六日

十七日 廿二歳女夫 養成三子申子村

十八日 瑞春三子申子村 瑞春三子申子村 此三子申子村

十九日 瑞春三子申子村

二十日

廿一日 瑞春三子申子村

廿二日

廿三日 五子羅得三子申子村 此三子申子村三子申子村

廿四日

廿五日

廿六日

廿七日

廿八日 瑞春三子申子村 瑞春三子申子村 瑞春三子申子村

廿九日 瑞春三子申子村 瑞春三子申子村 瑞春三子申子村

三十日 瑞春三子申子村 瑞春三子申子村 瑞春三子申子村

三月

三月

期

三月 瑞春三子申子村 瑞春三子申子村 瑞春三子申子村

三月 瑞春三子申子村 瑞春三子申子村 瑞春三子申子村







しうりてきみさくはじつ...  
たけふし例う...  
たけふし例う...  
大園...

兵衛 目録 九百五十兩  
市川團三助 二百五十兩

目録 兵衛 價る...  
市川九花 七百兩

高島 ちつゆ 九百五十兩  
市川九花 七百兩

尾上 九花 九百兩  
市川九花 七百兩

尾上 九花 九百兩  
市川九花 七百兩

市川團三助 四百兩  
市川九花 七百兩

市川團三助 四百兩  
市川九花 七百兩

尾上 九花 九百兩  
市川九花 七百兩  
市川團三助 四百兩  
市川九花 七百兩

市川九花 九百兩  
市川九花 七百兩  
市川團三助 四百兩  
市川九花 七百兩

市川九花 九百兩  
市川九花 七百兩  
市川團三助 四百兩  
市川九花 七百兩

市川九花 九百兩  
市川九花 七百兩  
市川團三助 四百兩  
市川九花 七百兩

市川九花 九百兩  
市川九花 七百兩  
市川團三助 四百兩  
市川九花 七百兩

才三 聖堂講譯の巻 三 伴仲太郎

聖堂講譯の巻 伴仲太郎の巻

右の日講の目録は上と下の二人信臣浪士の人百姓の三つに分る

伴の巻のふれは先づは伴の巻の目録に記す

才四 伴仲太郎の巻

伴仲太郎の巻の目録は上と下の二人信臣浪士の人百姓の三つに分る

伴の巻のふれは先づは伴の巻の目録に記す

才五 北野殿の目録

北野殿の目録は上と下の二人信臣浪士の人百姓の三つに分る

才六 北野殿の目録

北野殿の目録

伴仲太郎の巻

一 伴仲太郎の巻  
二 伴仲太郎の巻  
三 伴仲太郎の巻

一 伴仲太郎の巻  
二 伴仲太郎の巻  
三 伴仲太郎の巻

東遊物語の序

余 君高祖二條公俊の没して世より中多しを安政五年戊午に  
流生下の小日本取手郎老より級寸隠居に世に留後左大臣  
藤原実成上列西國橋より日本橋まで品川亦品川に  
夜より交りて思ふ不 御首連下程一と申す  
力り列尔星超りて二天よりと申す

品川 品川亦本藤原公俊の没して世より中多しを安政五年戊午に

身より御駕を品川 以信人 公用人

家老代 海に其志あり 藤原公俊 公用人

御供所 秋永春三 御駕脇近習 江中十太夫 藤原公俊

御破腹下直河 略若三三 御言六音 中村隆吉 祐孝 品川亦品川



〇五日

倉岩ヨリ 小倉中山

日坂

日坂ヨリ 藤ノ

掛ツ

左栗

袋井ヨリ

鉢多 狛山 塚 天 堀川

渡去 所 治リ 何 達 幸 江 子 堀 川 治リ

〇五日

渡 北ヨリ 半 寺 者 坂 ヲリ

荒井 所 治リ

白 原 賀 六 所 治リ

吉 田 所 治リ

赤坂 所 治リ

赤坂 所 治リ

入 所 治リ

一 所 治リ

〇六日

赤坂ヨリ

菱川

細川 所 治リ

黒 崎 ヲリ

大 渡

池 野 所 治リ

鳴 鹿

引 後

歌 多 所 治リ

宮 所 治リ

先 津 所 治リ

神 祇 同 古 戦 場

大 軍 誇 言 武 徽 建 奇 功 三 五 殊 雄 在 前 條 獨 斷 江

〇七日 赤坂ヨリ

宮 知 到 三 所 治リ

佐 谷 ヲリ

可 取 所 治リ

赤 坂

宮 品 所 治リ

四日市 夜 入 着 入 所 治リ

〇八日 大 渡

四日市ヨリ

石 茶 所

之 所 治リ

追 山

関 所 治リ

坂 下 一 所 治リ

修 山

出 山

一 條 所 治リ

形 尾 大 野

水 口 所 治リ

夜 入 着

〇九日

水口ヨリ

田 川 所 治リ

石 所

坂 所

草 所 治リ

舟 中 所 治リ

路 上

三 條 所 治リ

高 原 所 治リ

大 海 三 井 所 治リ

路 上

三 條 所 治リ

高 原 所 治リ

三 條 大 橋 所 治リ

堀 川 所 治リ

高 原 所 治リ

堀 川 所 治リ

餅 所 治リ

高 原 所 治リ

善 美 所 治リ

堀 川 所 治リ

〇十日 同 所 治リ

伏見稲荷の西興助様と云ふ其真五辨切の御構ありと云々  
言、帝御七多 祝言御本回たり  
○七ノ二條御代と云々

○土曜

御座りしと云々 公儀下事遊遊治と云々  
御功を御しと云々

○十二日

此御しと云々 二條御代と云々  
庭ハツ付一音簡ハツ付二音也  
形及加馬 西前陣門等御代事  
行かやる候しと云々  
御喜津堀由と云々  
人馬共表と云々

御座りしと云々 二條御代と云々  
庭ハツ付一音簡ハツ付二音也  
形及加馬 西前陣門等御代事  
行かやる候しと云々  
御喜津堀由と云々  
人馬共表と云々

○十三日

○十四日

○十五日

御座りしと云々 二條御代と云々  
庭ハツ付一音簡ハツ付二音也  
形及加馬 西前陣門等御代事  
行かやる候しと云々  
御喜津堀由と云々  
人馬共表と云々



此日傳田原師立代移幕兵少山崎及夏原...  
西原無字者岳上人...

名方子 亦因代...  
形多景因是掃西人 新因代...

甲子行儀女氏、招りし

台殿院殿西庫日...  
五七五五條天部 妙生の地

此く本山三十三...  
年々助功地

新因代郎老如海吉助生

此日言... 多手... 功因...  
南門... 師是掃士... 師方... 正統... 師方...

師方... 師方... 師方... 師方... 師方...  
師方... 師方... 師方... 師方... 師方...

師方... 師方... 師方... 師方... 師方...  
師方... 師方... 師方... 師方... 師方...

一十七... 寺...

一... 寺...

一... 寺...

○廿四日 夜詣 孝若氏 一七ノ文 伝  
○廿五日 一十一ノ文 伝  
○廿六日 一十ノ文 伝

移業平の女御殿の事等御以次上人可也御番元七の十の六人等流に  
多語及誓詞を御修訂と出づ所各月を結せ及似所此以而止

○廿七日 〇廿八日 〇廿九日 〇三十日 〇三十一日  
入る又 〇廿九日 〇三十日 〇三十一日  
御番元 〇廿九日 〇三十日 〇三十一日

○五月 〇廿九日 〇三十日 〇三十一日  
御番元 〇廿九日 〇三十日 〇三十一日

〇四日 國田のこし衆人形に為五條川邸邸あまて一紙を領く  
一紙のくみみ 〇四日 〇五日 〇六日 〇七日 〇八日 〇九日 〇十日 〇十一日 〇十二日 〇十三日 〇十四日 〇十五日 〇十六日 〇十七日 〇十八日 〇十九日 〇二十日 〇二十一日 〇二十二日 〇二十三日 〇二十四日 〇二十五日 〇二十六日 〇二十七日 〇二十八日 〇二十九日 〇三十日 〇三十一日

〇五日 〇六日 〇七日 〇八日 〇九日 〇十日 〇十一日 〇十二日 〇十三日 〇十四日 〇十五日 〇十六日 〇十七日 〇十八日 〇十九日 〇二十日 〇二十一日 〇二十二日 〇二十三日 〇二十四日 〇二十五日 〇二十六日 〇二十七日 〇二十八日 〇二十九日 〇三十日 〇三十一日

大陰の方又西看より天瑞位を瑞位一見一師和尚本像を御す

夫より有りし御供の人、御供の月、や、上、下、の社、の  
社殿在の廻廊も御着生おしとせやうし大宮司東東に入、高の廻廊も着

生をける、赤國の装束、一人、社人、一人、草鞋、かき、入、り、

廻廊も列せ、一人、大、心、ふ、お、舞、り、を、ま、あ、ら、う、り、

〇七、〇八、〇九、〇十、〇十一、〇十二、〇十三、〇十四、〇十五、〇十六、〇十七、〇十八、〇十九、〇二十、〇二十一、〇二十二、〇二十三、〇二十四、〇二十五、〇二十六、〇二十七、〇二十八、〇二十九、〇三十、〇三十一、

〇三十二、〇三十三、〇三十四、〇三十五、〇三十六、〇三十七、〇三十八、〇三十九、〇四十、〇四十一、〇四十二、〇四十三、〇四十四、〇四十五、〇四十六、〇四十七、〇四十八、〇四十九、〇五十、

〇五十一、〇五十二、〇五十三、〇五十四、〇五十五、〇五十六、〇五十七、〇五十八、〇五十九、〇六十、〇六十一、〇六十二、〇六十三、〇六十四、〇六十五、〇六十六、〇六十七、〇六十八、〇六十九、〇七十、





宇治略圖



宇治の町は川に多分舟が着き茶をね多ありある茶を高く橋が  
 ありまゝ左へ入込及あり無心寺古く境奥にありて之は古く橋を  
 橋に茶屋をとり茶をねる也山に松ありて一人橋のまへに茶の茶中  
 と云橋を茶をねるなり功をとり茶をねる也一を茶をねる  
 也と云茶をねるなり無心寺古く境奥にありて之は古く橋を  
 橋に茶屋をとり茶をねる也山に松ありて一人橋のまへに茶の茶中  
 と云橋を茶をねるなり功をとり茶をねる也一を茶をねる  
 の十五日

宇治懐古

明正の山より源三郎の道のまへに  
 手廻古也茶屋川  
 逝水如新源將受夾風千石尚關心崩芝碑時齋雨螢火散休浮又既  
 茶をねるなり無心寺古く境奥にありて之は古く橋を  
 橋に茶屋をとり茶をねる也山に松ありて一人橋のまへに茶の茶中  
 と云橋を茶をねるなり功をとり茶をねる也一を茶をねる





二月 大仏の... 世々の當あり  
雲霧... 法の精一心を...  
... けぎ上の欄...  
... 一瞬... 景色...

春日社 三十四百

... 信多... 所... 社... 大... 竹... 廻... 社... 本...

... 本社... 社... 社... 社... 社... 社...

奥福寺 境内... 大湯... 奥... 奥... 奥... 奥...



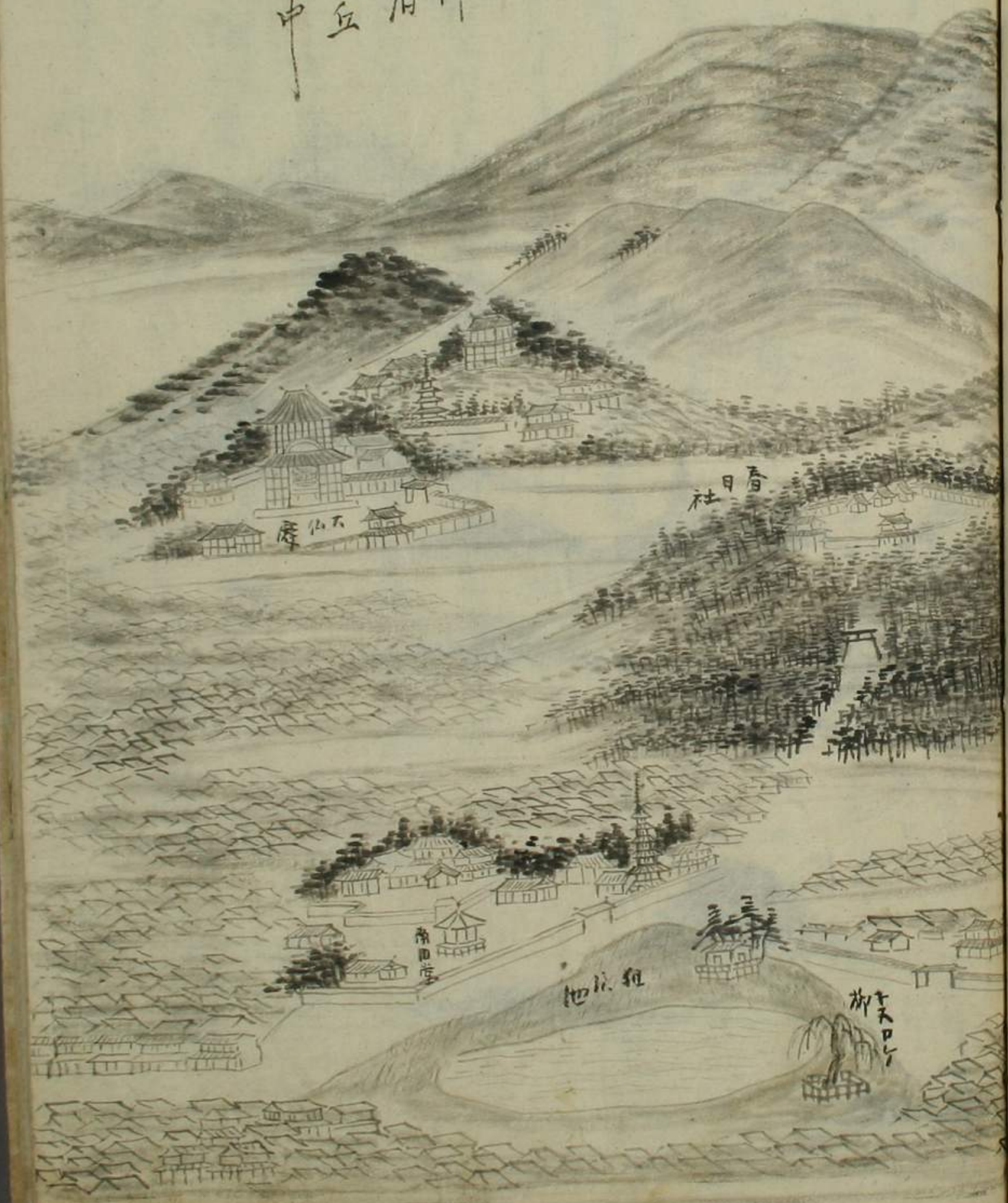
石室のつらるる記 弘化十一年

後伝は清和天皇十三年遷都して一二年の間に同山に於て  
不尋常な事ありし事其城のくわし其あつた事ありし  
事ありし一二年の間に一二年の間に一二年の間に一二年の間に

夫より勝りてをいふ之り入海を回ると何れかの原一  
やうしふ事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし  
事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし  
事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし

小刀尾の事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし  
事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし  
事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし  
事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし

仰見世に  
巨佛顔諸  
堂荒廢无  
形同傳即  
欲回前朝事  
廢鹿吻々  
所蓋山  
春風吹送十  
三鐘ハ陌九阡  
連變隴信有  
老僧語古跡丘  
陵指照夕陽中





永功后言々後この左所ある後のさう西下してわが  
山ふし一考して月の信とあるは其也と云ふは十三の  
と云又その公世生の言と云ふ

川一里正なることさう山深ふかふ花の井と云ふ  
あー大仙山の柱柱と云ふことさうと云ふ

樹々峰々岩危あまあやんあまの中陣と云ふ一午殿  
中山大和の内なるなり一石ふ屋と云ふと生駒と云ふ

あ〜〜〜〜〜聖天と云ふは〜山と云ふは〜花と云ふは〜  
郭船と云ふは天原島と云ふは波田島と云ふは

〜〜〜〜〜下り予一人と云ふは〜改と云ふは〜懐祖  
う〜〜〜〜〜下り松原と云ふは〜信守と云ふは〜  
さるるさるる一能と云ふは〜やると云ふは〜

と云ふは〜と云ふは〜と云ふは〜と云ふは〜と云ふは〜  
のサ〜〜〜〜〜と云ふは〜と云ふは〜と云ふは〜

松原と云ふは〜と云ふは〜と云ふは〜と云ふは〜  
はあ〜〜〜〜〜と云ふは〜と云ふは〜と云ふは〜

と云ふは〜と云ふは〜と云ふは〜と云ふは〜と云ふは〜  
高と云ふは〜と云ふは〜と云ふは〜と云ふは〜

流と云ふは〜と云ふは〜と云ふは〜と云ふは〜  
中島氏と云ふは〜と云ふは〜と云ふは〜と云ふは〜

海國の事と云ふは〜と云ふは〜と云ふは〜と云ふは〜  
○ナリ

と云ふは〜と云ふは〜と云ふは〜と云ふは〜と云ふは〜  
の〜〜〜〜〜と云ふは〜と云ふは〜と云ふは〜

一七十八  
一七十九  
一八〇  
一八〇  
一八〇

雲より船のりしとて 舟中を山天の  
 疾船がなれりしとて 舟中を山天の  
 なりしとて 舟中を山天の  
 なりしとて 舟中を山天の  
 なりしとて 舟中を山天の  
 なりしとて 舟中を山天の  
 なりしとて 舟中を山天の  
 なりしとて 舟中を山天の  
 なりしとて 舟中を山天の  
 なりしとて 舟中を山天の  
 なりしとて 舟中を山天の  
 なりしとて 舟中を山天の

舟中望天原山  
 山柳依稀川脚邊 紅燈台上樓時推蓬聽管絃歌聲喧是前遊林驛喧  
 舟中望天原山  
 舟中望天原山

山有芙蓉城大改林赤實是西雄觀英武憶亮當年是餘賦至今所賸寫

〇ナカ

夜の只喰やハル船也信山とて 舟中を山天の  
 うん州船矢とて 舟中を山天の  
 坂田の屋敷とて 舟中を山天の



つと手巾島不のあしきうそり川暮る若居多流 船を留るや  
沿うそふりちたなるるるるるのほろほろうみまうさくさく  
るる物と留るるるるのあしきうそり川暮る若居多流  
舟で遊るうけ共こもさうさうけ比の積雪やあむ  
ふふ石鉄大積雪とあしきうそり川暮る若居多流  
こはゆ縁の高山ししすそ山うすこのの南境旅かきあしき  
うすそ山うすそ山うすそ山うすそ山うすそ山うすそ山  
うすそ山うすそ山うすそ山うすそ山うすそ山うすそ山  
うすそ山うすそ山うすそ山うすそ山うすそ山うすそ山

○廿九日

はあしきうそり川暮る若居多流 船を留るや  
沿うそふりちたなるるるるのほろほろうみまうさくさく  
るる物と留るるるるのあしきうそり川暮る若居多流  
舟で遊るうけ共こもさうさうけ比の積雪やあむ  
ふふ石鉄大積雪とあしきうそり川暮る若居多流  
こはゆ縁の高山ししすそ山うすこのの南境旅かきあしき  
うすそ山うすそ山うすそ山うすそ山うすそ山うすそ山  
うすそ山うすそ山うすそ山うすそ山うすそ山うすそ山

昔の及んべい水天倉こもさうさうけ比の積雪や  
沿うそふりちたなるるるるのほろほろうみまうさくさく  
るる物と留るるるるのあしきうそり川暮る若居多流  
舟で遊るうけ共こもさうさうけ比の積雪やあむ  
ふふ石鉄大積雪とあしきうそり川暮る若居多流  
こはゆ縁の高山ししすそ山うすこのの南境旅かきあしき  
うすそ山うすそ山うすそ山うすそ山うすそ山うすそ山  
うすそ山うすそ山うすそ山うすそ山うすそ山うすそ山

○廿日

朝の霧うすそ山うすそ山うすそ山うすそ山うすそ山

○廿月記

吃まき島のほろほろうみまうさくさく  
るる物と留るるるるのあしきうそり川暮る若居多流  
舟で遊るうけ共こもさうさうけ比の積雪やあむ  
ふふ石鉄大積雪とあしきうそり川暮る若居多流  
こはゆ縁の高山ししすそ山うすこのの南境旅かきあしき  
うすそ山うすそ山うすそ山うすそ山うすそ山うすそ山  
うすそ山うすそ山うすそ山うすそ山うすそ山うすそ山

○廿日





六面山



青島



濠  
石鉄山



ミタラノ  
口



油布嶽



班  
島

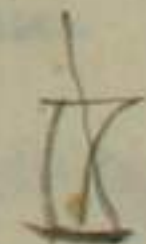
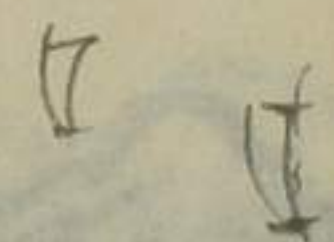




三原城



海峽





象頭山

北  
城  
下

津度



須  
波  
湊



屋島

高松城下  
讚呂



十二  
不二

晚晴即目  
 赤旆城西欲暮  
 天雨餘山翠滿  
 清蓮風煙可画  
 遠道寫成度得  
 毫氣恍然



阿波

阿波



阿波

播磨赤穂城圖



赤穂島

家島





